



平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年8月3日

上場会社名 株式会社フレンドリー 上場取引所 大
 コード番号 8209 URL <http://www.friendly-co.com/>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)中井 豊人
 問合せ先責任者 (役職名)経営管理部長 (氏名)鮫島 篤志 (TEL)072(874)2747
 四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の業績(平成24年4月1日~平成24年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	2,339	△5.9	△74	—	△65	—	△73	—
24年3月期第1四半期	2,484	△8.9	△52	—	△52	—	△61	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	△5 01	—
24年3月期第1四半期	△4 19	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第1四半期	5,977	2,519	42.1
24年3月期	6,176	2,596	42.0

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 2,519百万円 24年3月期 2,596百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0 00	—	0 00	0 00
25年3月期	—				
25年3月期(予想)		0 00	—	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の業績予想(平成24年4月1日~平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,980	△4.2	23	—	37	—	22	—	1 50
通期	9,770	△2.7	40	—	68	—	20	—	1 37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

25年3月期1Q	14,645,584株	24年3月期	14,645,584株
----------	-------------	--------	-------------

② 期末自己株式数

25年3月期1Q	25,961株	24年3月期	25,961株
----------	---------	--------	---------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

25年3月期1Q	14,619,623株	24年3月期1Q	14,621,323株
----------	-------------	----------	-------------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）2ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	2
(3) 業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	2
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	3
4. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) セグメント情報等	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
(6) 重要な後発事象	7
5. 補足情報	8
生産、受注及び販売の状況	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

当社において開示対象となる報告セグメントは、フードサービス事業の単一事業であるため、業態区分別に記載しております。

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、復興関連需要などにより緩やかな持ち直しの動きが見られましたが、欧州の債務危機等を背景とした海外景気の減速や急激な円高により、依然として先行き不透明な状況で推移してまいりました。当外食業界におきましても、雇用・所得環境への不安感による消費者の節約志向に加え、放射能汚染による食の安全性への関心の高まり、外食企業間・中食業界との競争激化等により、取り巻く環境は、前期に引続き極めて厳しい状況で推移しております。

このような環境のもと、当社におきましては黒字体質への転換を早期に果たすべく、平成22年10月に策定した「経営構造改革計画」を着実に実行してまいりました。「店舗数の拡大による規模の効果を求める経営から、利益率や各店舗ごとの採算性を重視する経営スタイルへの転換」「CS活動を軸にした企業風土の改革」を基本方針とし、具体的施策として、①業態ポートフォリオの見直し、②「香の川製麺」「ハッピーコング」の新業態の展開と実験、③オペレーションの改善、④CS活動への取り組み、⑤不採算店舗の閉鎖、⑥人員の削減、⑦物流・工場のアウトソーシング化、に取り組んでまいりました。また現在、前期に引続き経費削減施策(原価率改善、人件費率改善、販売促進費の効率的な使用)に加え、新規顧客獲得やリピーター顧客数増加のための売上向上施策への取り組みを継続的に実施しております。

店舗展開につきましては、当第1四半期の新規出店・閉店・業態転換がありませんでしたので、当第1四半期会計期間末の店舗数は、前事業年度末と変わらず98店舗(前年同期比2店舗の減少)となりました。

業態別には、こだわりの本マグロが好評の「産直鮮魚と寿司・炉端 源ぺい」27店舗、「おいしい・たのしい・こころいい」をコンセプトとする洋食の「ファミリーレストラン フレンドリー」26店舗、「釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺」17店舗、「日本の原風景“里山”」をコンセプトとする居酒屋「和み料理と味わいの酒 土筆んぼう」12店舗、「和・洋・中の料理と団欒」をコンセプトとする「団欒れすとらんボンズ」11店舗、「ハッピーコング」4店舗、「新・酒場 なじみ野」1店舗、となっております。

商品政策につきましては、“健康・安全・おいしさ”の見地から食材を厳選し、お値打ちな商品の提供と同時にライブ感を味わっていただけるように努めました。食の安全・衛生管理につきましては、引続き「フレンドリー品質基準」の構築と衛生管理と検査体制を確立し、厳格に運用しております。

これらの結果、当第1四半期累計期間の業績は、売上高は2,339百万円(前年同期比145百万円の減少)、営業損失は74百万円(前年同期比22百万円の増加)、経常損失は65百万円(前年同期比12百万円の増加)、四半期純損失は73百万円(前年同期比12百万円の増加)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

当第1四半期会計期間末における総資産は、5,977百万円で前事業年度末比198百万円の減少となりました。主な要因は、現金及び預金の減少によるものです。負債合計は買掛金、未払金の減少等により前事業年度末比121百万円減少し、3,458百万円となりました。純資産は四半期純損失等により前事業年度末比76百万円減少し、2,519百万円となりました。この結果、当第1四半期会計期間末の自己資本比率は、前事業年度末比0.1ポイント改善して42.1%となりました。

(3) 業績予想に関する定性的情報

平成24年5月15日に公表いたしました業績予想につきましては、現時点におきまして変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

当第1四半期累計期間
(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第1四半期累計期間の営業損失、経常損失及び税引前四半期純損失はそれぞれ704千円減少しております。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社は、前期において5期連続の営業損失、7期連続の当期純損失となっており、平成23年2月末より取引金融機関に対して借入金の返済猶予を要請していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消すべく、平成22年10月4日に「経営構造改革計画」を策定し実行いたしております。

「経営構造改革計画」の基本方針として「店舗数の拡大による規模の効果を求める経営から、利益率や各店舗ごとの採算性を重視する経営スタイルへの転換」「CS活動を軸にした企業風土の改革」を掲げ、具体的施策として、①業態ポートフォリオの見直し、②「香の川製麺」「ハッピーコング」の新業態の展開と実験、③オペレーションの改善、④CS活動への取り組み、⑤不採算店舗の閉鎖、⑥人員の削減、⑦物流・工場のアウトソーシング化、に取り組んでまいりました。これらの施策を継続してまいりましたが、当第1四半期累計期間の営業損失は前年同期比22百万円増加いたしました。今後は、経費削減施策（原価率改善、人件費率改善、販売促進費の効率的使用）を更に徹底して推進することに加え、売上向上施策（新規顧客獲得のための販売促進の実施、リピート顧客数の増加のための品質・サービス・清潔さの改善や新規メニューの開発、キャンペーンの実施等）をより効果的に実施することで、強固な利益体質を目指してまいります。

また、金融機関に対する返済猶予については、平成24年6月末から平成25年6月末に1年間延長されております。

4. 四半期財務諸表
(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,112,754	913,971
売掛金	58,870	42,412
商品	56,262	58,376
貯蔵品	1,099	1,099
前払費用	58,474	100,240
その他	8,335	16,608
貸倒引当金	△75	△57
流動資産合計	1,295,723	1,132,652
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	926,168	908,775
土地	2,112,191	2,112,191
その他(純額)	172,059	192,222
有形固定資産	3,210,419	3,213,189
無形固定資産	32,282	32,246
投資その他の資産		
投資有価証券	66,377	60,762
差入保証金	1,421,273	1,400,488
その他	153,307	141,369
貸倒引当金	△2,910	△2,870
投資その他の資産合計	1,638,048	1,599,750
固定資産合計	4,880,751	4,845,186
資産合計	6,176,474	5,977,838
負債の部		
流動負債		
買掛金	285,833	243,558
短期借入金	977,457	977,457
1年内返済予定の長期借入金	1,167,000	1,167,000
リース資産減損勘定	14,242	7,597
未払金	331,095	302,846
未払法人税等	51,862	17,197
その他	99,128	97,482
流動負債合計	2,926,619	2,813,138

(単位:千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成24年6月30日)
固定負債		
資産除去債務	353,189	353,979
長期末払金	45,350	45,350
繰延税金負債	20,127	17,646
再評価に係る繰延税金負債	132,061	132,061
その他	102,637	96,102
固定負債合計	653,365	645,140
負債合計	3,579,985	3,458,279
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,975,062	3,975,062
資本剰余金	3,058,146	3,058,146
利益剰余金	△3,430,638	△3,503,954
自己株式	△11,772	△11,772
株主資本合計	3,590,798	3,517,482
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,496	1,882
土地再評価差額金	△999,805	△999,805
評価・換算差額等合計	△994,308	△997,922
純資産合計	2,596,489	2,519,559
負債純資産合計	6,176,474	5,977,838

(2) 四半期損益計算書
第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)
売上高	2,484,550	2,339,013
売上原価	757,954	698,266
売上総利益	1,726,595	1,640,746
販売費及び一般管理費	1,778,630	1,715,581
営業損失(△)	△52,035	△74,834
営業外収益		
受取利息	1,356	1,227
受取配当金	1,087	1,087
受取家賃	23,745	31,245
設備賃貸料	8,282	7,944
その他	4,978	2,413
営業外収益合計	39,449	43,917
営業外費用		
支払利息	18,063	14,163
賃貸費用	15,426	16,307
設備賃貸費用	3,220	3,032
その他	3,678	883
営業外費用合計	40,389	34,387
経常損失(△)	△52,974	△65,304
特別利益		
固定資産売却益	1,520	—
特別利益合計	1,520	—
特別損失		
固定資産除却損	748	160
特別損失合計	748	160
税引前四半期純損失(△)	△52,202	△65,464
法人税、住民税及び事業税	8,331	8,331
法人税等調整額	674	△479
法人税等合計	9,005	7,851
四半期純損失(△)	△61,207	△73,316

(3) 継続企業の前提に関する注記

当社は、前期において5期連続の営業損失、7期連続の当期純損失となっており、平成23年2月末より取引金融機関に対して借入金の返済猶予を要請していることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当該状況を解消すべく、平成22年10月4日に「経営構造改革計画」を策定し実行いたしております。「経営構造改革計画」の基本方針として「店舗数の拡大による規模の効果を求める経営から、利益率や各店舗ごとの採算性を重視する経営スタイルへの転換」「CS活動を軸にした企業風土の改革」を掲げ、具体的施策として、①業態ポートフォリオの見直し、②「香の川製麺」「ハッピーコング」の新業態の展開と実験、③オペレーションの改善、④CS活動への取り組み、⑤不採算店舗の閉鎖、⑥人員の削減、⑦物流・工場のアウトソーシング化、に取り組んでまいりました。これらの施策を継続してまいりましたが、当第1四半期累計期間の営業損失は前年同期比22百万円増加いたしました。今後は、経費削減施策（原価率改善、人件費率改善、販売促進費の効率的使用）を更に徹底して推進することに加え、売上向上施策（新規顧客獲得のための販売促進の実施、リピート顧客数の増加のための品質・サービス・清潔さの改善や新規メニューの開発、キャンペーンの実施等）をより効果的に実施することで、強固な利益体質を目指してまいります。

また、金融機関に対する返済猶予については、平成24年6月末から平成25年6月末に1年間延長されております。

現在、これらの対応策は一定の成果を挙げておりますが、当初予定していた業績の回復には至っておらず、業績の回復は今後の消費動向等に左右される可能性があるため、現時点において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期財務諸表に反映しておりません。

(4) セグメント情報等

当社は、フードサービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。

5. 補足情報

【生産、受注及び販売の状況】

当社において開示対象となる報告セグメントは、フードサービス事業の単一事業であるため、主に業態区分別に記載しております。

(1) 生産実績

平成23年6月末に自社生産を中止し、工場を閉鎖しましたので記載すべき事項はありません。

(2) 受注実績

当社はレストラン業であり、受注高及び受注残高について記載すべき事項はありません。

(3) 販売実績

当第1四半期累計期間における販売実績を業態区分別に示すと、次のとおりであります。

(単位：千円)

業態区分の名称	当第1四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)	前年同期比(%)
産直鮮魚と寿司・炉端 源べい	745,992	95.3
ファミリーレストラン フレンドリー	609,048	91.9
釜揚げ讃岐うどん 香の川製麺	322,287	89.4
和み料理と味わいの酒 土筆んぼう	315,931	95.5
団欒れすとらん ボンズ	236,412	86.7
ハッピーコング	90,073	152.6
新・酒場 なじみ野	19,266	121.6
合計	2,339,013	94.1

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 「ハッピーコング」は、前第1四半期累計期間に比べ、2店舗から4店舗に増加しております。